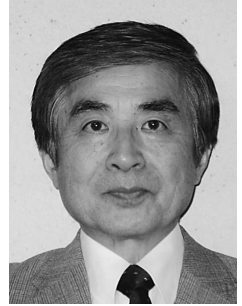


## 2年間を顧みて、そして思うこと



OR学会前会長：政策研究大学院大学 名誉教授 大山 達雄

2016年4月からの2年間、本学会の会長を務めさせていただきました。私の任期中の2017年は日本オペレーションズ・リサーチ（OR）学会の60周年記念の年ということで、多くの立派な先輩諸氏が築き上げてきた本学会の来し方、行く末を考える、一つの貴重な機会が与えられた気がします。本学会をどうやら無事に運営できた（？）のは、まさにともに働いてもらった18名の理事の皆様のおかげであると思っています。ありがとうございました。

さて、本学会は60周年記念事業委員会において、2015年以来、今後なすべき運営活動について検討を重ね、実行に移してきた。この活動は今後も続くことから、この期に学会会長を務めさせていただいた立場と経験から、任期を終えた現在、この2年間を顧みたく、学会の将来に向けて思うことを少し記しておきたい。

まず学会会員増強については、ほとんどの学会において大幅な会員減少が懸念されている中、本学会においても以前から常にずっと言われ続けていることである。学生会員がいかんして卒業後も学生会員として活動してもらえるかを考える必要があらう。そのためには、学生の在学中にわれわれの身近なところに存在するいろいろな問題解決手法の一つとしてORにもっとなじんでもらうこと、そしてその面白さ、奥深さ、有用性、汎用性についても理解してもらうことが必要であらう。また一般企業あるいは行政機関に所属する会員の増強に関しては、一般的な普及活動に加えて、後述する共同研究、共同プロジェクトを通じた形での会員増加策が有効と思われる。特に一般企業に所属する会員に関しては、大企業に限らず、むしろ中小企業へのOR学会活動の普及と浸透を図ることが重要かつ効果的ではないかと考えている。よく知られているように、わが国には現在380万余社もの企業が存在し、その中の大企業はわずか1万余社に過ぎない。わが国の企業の圧倒的多数（99%以上）が中小企業なのである。このような状況の中で、大企業ではORスタッフ、OR関連部署を備えていることを考えると、そしてまた中小企業においては未だORがさほどには普及していないことを考えると、たとえ社内にORに理解のある社員を1人でも作ることは十分に有効な手段のほうである。

一般企業との共同研究、産学連携の促進を図ることについては、一つの手段、方法として、“OR的考え方、

アプローチ”、“数理モデルの構築、定式化、解法”、“数理モデルの有効性”、などを最優先させ、それらを丁寧、詳細に説明することからスタートするよりもむしろ、各企業ないしは産業界にとって現状、課題がどのようなもので、それらの解決に向けての要望、希望を聞き、お互いに各種データをもとに議論、検討したうえで、OR的考え方、アプローチを提示、説明することのほうが必要かつ効果的であらう。つまり数理モデルから入るのではなく、あくまでもデータ分析から入るべきであって、数理モデルは一つの解決法であるといった前提、認識が必要と思われる。ORとは“問題解決のための科学的思考方法”であるということ再認識することはもちろん、数理モデルを作って解くことのみがORではないはずである。データを収集、加工、分析することも重要なORの手順のほうである。

ORがここまで社会に普及してきた現在は、特定の理論、手法をORであると主張するよりもOR的なものの方、データの分析処理の仕方を提示することによって、インターネットが普及し、情報化が進み、ビッグデータが利用可能となった時代の中で学問的存在価値を示すことができるであらう。このような状況を考えるとき、ORは自然科学に限らず、人文科学、社会科学をも繋ぎうる横断的かつ学際的な学問分野としての特徴を示すことが可能であると信じる。

最後に現在のわが国のOR学会が抱える諸課題を解決するうえで、国際的活動をより活発にすることの必要性を強調したい。私自身、国際オペレーションズ・リサーチ学会連合IFORS（International Federation of Operational Research Society）の活動を長い期間にわたって行い、そこで多くの外国人研究者の友人を得、現在もなおその交流を続けている。研究者個人個人はそれぞれの国際的活動を行っているであろうが、ぜひ学会としても組織的活動を通じてわが国のOR学会の存在感を高めてほしいと思っている。友人である米国の現OR学会会長のNick G. Hall氏にも、世界各国のOR学会会員数は、米国は1番、日本は2番なのだからと言われている。今後の学会員諸氏の益々の活躍と学会の飛躍的發展を期待したい。

2年間にわたる皆様のご協力に心から感謝して本稿を閉じさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。